防水工事　16

R4 16

防水工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1．シート防水工事の**接着工法**において、一般平場部の合成高分子系ルーフィングシートについて は、引張力を与えながら下地に接着させた。 ✕

2．**屋根保護防水絶縁工法**によるアスファルト防水工事において、一般平場部に砂付あなあきルー フィングを使用する工法としたので、立上り部については砂付あなあきルーフィングを省略 した。

3．ウレタンゴム系塗膜防水工事において、防水材の塗布による防水層の施工については、立上り部、平場部の順に行った。

4．シーリング工事において、外部に面するシーリング材の施工に先立ち行う接着性試験については、特記がなかったので、簡易接着性試験とした。

R3 16

防水工事に関する次の記述のうち、監理者の行為として、最も不適当なものはどれか。

1．ウレタンゴム系塗膜防水工事において、補強布の重ね幅については **50 mm**以上、防水材の塗継ぎの重ね幅については 100 mm以上となっていることを確認した。

2．**屋根露出防水密着工法**による改質アスファルトシート防水工事において、プレキャストコンクリート部材の接合部の目地については、改質アスファルトシートの張付けに先立ち、増張り用シートを両側に 50 mm程度ずつ張り掛けた絶縁増張りが行われていることを確認した。 ✕

3．**屋根保護防水密着断熱工法**によるアスファルト防水工事に用いる断熱材は、押出法ポリスチレンフォーム断熱材 3 種bA（スキン層付き）が使用されていることを確認した。

4．**屋根保護防水絶縁工法**によるアスファルト防水工事において、平場部の立上り際の 500 mm程度の部分については、立上り部の 1 層目のアスファルトルーフィング類がアスファルトを用いた密着張りとなっていることを確認した。

R2 16

防水工事に関する次の記述のうち、監理者が行った行為として、最も不適当なものはどれか。

1．**屋内防水密着工法**によるアスファルト防水工事において、平場の鉄筋コンクリートの打継ぎ部については、幅 50 mm程度の絶縁用テープを張り付けた後、**幅 300 mm**程度のストレッチルーフィングの増張りが行われていることを確認した。

2．**接着工法**による合成高分子系シート防水工事において、加硫ゴム系シートの接合幅（重ね幅）については、平場部、立上り面ともに 100 mmとなっていることを確認した。 ✕

3．陸屋根のステンレスシート防水工事において、部分吊子とした吊子の固定間隔（はぜ方向）については、一般部 600 mm、端部 450 mm、隅角部 300 mmとなっていることを確認した。

4．シーリング工事において、ノンワーキングジョイントの鉄筋コンクリート造の外壁の収縮目地については、**三面接着**となっていることを確認した。

R元 16

防水工事等に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1．合成高分子系シート防水工事において、防水層の下地の**入隅については直角**とし、出隅については **45 度の**面取りとした。

2．アスファルト防水工事において、アスファルトプライマーを刷毛でむらなく均一となるよう塗布し、30～60 分程度の経過後、一層目のアスファルトルーフィングを張り付けた。 ✕

3．共同住宅において、現場打ち鉄筋コンクリートのバルコニーを塗膜防水としたので、**防水層の塗膜防水材をウレタンゴム系**とし、その仕上げを軽歩行用仕上塗料とした。

4．**屋上緑化システム工事**において、防水層に植物の根が直接触れないようにするために、耐根層を防水層**直上部**に設けた。

R5 16

防水工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1．**トーチ工法**による改質アスファルトシート防水工事において、立上り部の防水層の末端部については、各層の改質アスファルトシートを所定の位置で各層の端部をそろえ、押え金物で固定した上に、シール材を充填した。

2．**アスファルト防水工事**において、保護層に設ける成形伸縮目地材については、キャップ幅が25 mm、本体幅が 20 mm、保護コンクリートの上面から下面にまで達するよう高さの調節が可能なもので、キャップ側面に付着層を備えたものとした。

3．**ウレタンゴム系塗膜防水工事**において、防水層の下地については、入隅を丸面に仕上げ、出隅を通りよく直角に仕上げた。 ✕

4．**シーリング工事**において、プライマーの塗布及び充填時に被着体が、 5 °C以下になるおそれがあったので、仮囲い、シート覆い等による保温などの必要な措置を講じて施工した。

H25 16

防水工事及び屋根工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1．シート防水工事において、防水層の下地の**入隅については直角**とし、出隅については 45度の面取りとした。

2．アスファルト防水工事において、アスファルトプライマーを刷毛でむらなく均一となるように塗布した後、15分程度の時間をおいて、直ちに一層目のアスファルトルーフィングを張り付けた。 ✕

3．鉄筋コンクリート造の陸屋根に設ける横型ルーフドレンの取付けについては、ドレンのつばの天端レベルを周辺コンクリート天端から 40mm程度下げ、ドレンが水平になるように固定して、コンクリートに打ち込んだ。

4．木造建築物の J 形瓦を用いる屋根工事において、緩勾配で漏水のおそれがある部分（3.5 /10勾配、流れ長さ１１m）の下葺材料については改質アスファルトリーフィングを使用した。

H26 16

防水工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1．シーリング工事において、鉄筋コンクリート造の建築物の外壁に設けるひび割れ　**誘発目地**については、目地底にボンドブレーカーを使用せずに、シーリング材を充填する三面接着とした。

2．シート防水工事において、**合成樹脂系シートを用いた接着工法**については、立上り部及び平場のシート張付けに先立ち、出隅角及び入隅角に成形役物を張り付けた。 ✕

3．塗膜防水工事において、補強布については、下地によくなじませ、しわや耳立ちが 生じないように防水材で張り付けた。

4．改質アスファルトシート防水工事において、立上り部の防水層の末端部については、 押え金物を用いて留め付け、ゴムアスファルト系シーリング材を充填した。

H27 16

防水工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1．アスファルト防水工事において、防水下地の入隅及び出隅については、通りよく**45度**の面取りとした。

2．アスファルト防水工事において、平場部の防水層の保護コンクリートに設ける**伸縮目地の割付け**については、パラペット等の立上り部の仕上り面から 600mm程度とし、中間部は縦横の間隔を3,000mm程度とした。

3．塗膜防水工事において、防水材塗継ぎの重ね幅を 50mmとし、補強布の重ね幅を100mmとした。 ✕

4．シーリング工事において、２成分形シーリング材は、１組の作業班が１日に行った施工箇所を**１ロット**として、ロットごとに別に作成したサンプルにより、定期的に 練混ぜ後の硬化状態を確認した。

H28 16

防水工事及び屋根工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1．アスファルト防水工事において、コンクリート下地の乾燥状態については、**高周波水分計**による下地水分の測定により判断した。

2．シーリング工事において、特記がなかったので、コンクリート壁下地の**外壁のタイ ル目地**に**２成分形ポリサルファイド系**シーリング材を使用した。

3．アスファルト防水工事で使用する縦引き型ルーフドレンについては、ルーフドレン から雨水排水縦管までの横引き管を短くするため、ルーフドレンをパラペットの立上り部に接する位置に設置した。 ✕

4．金属板による折板葺において、タイトフレームと受け梁との接合については、**ボルト接合とせずに隅肉溶接**とし、**風による繰返し荷重**による緩みを防止した。

H29 16

防水工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1．シーリング工事において、鉄筋コンクリート造の建築物の外壁に設けるひび割れ誘発目地については、目地底にボンドブレーカーを使用せずに、シーリング材を充填 する三面接着とした。

2．**屋根保護防水絶縁工法**によるアスファルト防水工事において、砂付あなあきルーフィングを一般平場部に使用したが、**立上り部については省略**した。

3．**屋根保護防水密着工法**によるアスファルト防水工事において、防水層の下地の立上 り部の出隅部は面取りとし、入隅部は直角の納まりとした。 ✕

4．アスファルト防水工事において、工期短縮を図るため、プレキャスト化した「塔屋の壁基壇部」と「現場打ちコンクリートのスラブ」とを**一体化**して防水層の下地とし た。

H30 16

防水工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1．アスファルト防水工事において、コンクリート下地の乾燥状態については、**高周波水分計**で測定すると**ともに**、コンクリート打込み後の経過日数により判断した。

2．アスファルト防水工事において、平場部の防水層の保護コンクリートに設ける伸縮調整目地の割付けについては、パラペット等の立上り部の仕上り面から600mm程度とし、中間部は縦横の間隔を 5m程度とした。 ✕

3．シーリング工事において、外部に面するシーリング材の施工に先立ち行う**接着性試験**については、特記がなかったので、簡易接着性試験とした。

4．シーリング工事において、２成分形シーリング材については、１ 組の作業班が １日に行った施工箇所を １ ロットとして、**ロットごとにサンプルを別に作製**し硬化の過程や硬化状態を確認した。

- 防水工事
  - 材料
    - 屋上緑化システム工事
    - 金属板による折板葺
      - タイトフレームと受け梁との接合
      - ボルト接合 ✕
      - 隅肉溶接 ○
    - J 形瓦を用いる屋根工事
  - 防水下地他
    - ドレン
    - 乾燥状態
    - 勾配
  - 塗膜防水
    - ウレタンゴム系塗膜防水工事
    - 重ねしろ
      - 補強布：50㎜以上
      - 塗継ぎの重ね幅；100㎜以上
  - シート防水工事
    - 合成高分子系シート防水工事
      - 接着工法
        - 出隅；面取り
        - 入角；直角
  - アスファルト防水工事
    - 屋内防水密着工法
    - 屋根保護防水密着断熱工法
    - 屋根露出防水密着工法
    - 屋根保護防水絶縁工法
    - 出隅、入隅；４５度面取り
  - 改質アスファルトシート防水工事
    - トーチ工法
  - シーリング工事
    - ２面接着
    - ３面接着
      - ノンワーキングジョイント
      - 誘発目地
    - タックフリー
  - ステンレスシート防水工事
    - 固定間隔（はぜ方向）
      - 一般部 600 mm
      - 端部 450 mm
      - 隅角部 300 mm